

たよりにしてね、おかあさん

鹿児島県 神村学園初等部二年

竹田 汀奈

「さあ、おそうじして、おとうさんに気もちよくなつてもらおうね。」
おかあさんが、バケツに水をくみながら言いました。わたしは「ようし。きれいにするぞ。」と
ほうきをぎゅつとにぎりました。

おかあさんは、まずおはかにお水をかけて、すみずみまでふいていきます。わたしはそのとなり
でほうきをシャツシャツとうごかして、おちばをはきます。いもうとたちは、おいかけっこをして
あそんでいます。

「ふう、きれいになった。」

おかあさんが手であせをぬぐいながら、にっこりして言いました。わたしも「うん、ぴかぴかだ。」
と気もちがよくなります。すうつと風がふいて、わたしのほつぺをなでていきます。おとうさんが
「ていなちゃん、ありがとう。おりこうさん。」となでてくれているようです。おかあさんも目をとじ
て、気もちよさそうにしています。おかあさんにもおとうさんの声が聞こえているのかもしれない。

わたしのおとうさんは、わたしが小さいころになくなつてしまいました。だから、おかあさんが、おと
うさんの分までがんばっています。おしごともおうちのことわたしや三人のいもうとたちのおせわも

あります。おしごとがいそがしくて帰りがおそくなることもあります。そんなときに、おかあさんが「ていなちゃん、手つだつてちょうだい。」

と言うと、わたしはすぐに手つだえるときと「ええ、いやだな。」と思ってしまうときがあります。でも、お手つだいをすると、おかあさんがかならず、

「お手つだいでくれてありがとう。たよりになるね。」

とにっこりわらってくれるので、うれしくなります。おかあさんのにっこりえがおが、わたしは大すきです。今年の夏休みは、おせんたくものたたみのお手つだいをしました。おばあちゃんと「しよに、とりこんでたたみました。とりこんだせんたくものは、山のようにになります。おばあちゃんが、くるくるつとくつ下をたたみながら、

「はしとはしをそろえてね。」

と教えてくれます。はしとはしをそろえて手をぴんとのはすと、タオルがきれいととのうのです。ふかふかのタオルは、お日さまのにおいとおかあさんのにおいがします。あまくて、うつとりする大すきなおい。わたしは、タオルをぎゅつとだきしめて、思いつきいきをすいました。むねいっばいに、いいにおいがすうつと入ってきました。おしごとについているおかあさんが、「大すきよ。」とだきしめてくれるようでした。おせんたくものは、たたんでもたたんでもなくなりません。「おかあさんは、まい日こんなに大へんなんだ。」と思いました。

おかあさん、わたしたちのためにがんばってくれてありがとう。大すきだよ。いつでもお手つだいですよ。たよりにしてね。